

”10月9日“

平成26年10月9日、旧東中学校に当時の東西両中学校の生徒及び教職員が集まり、白鷹中学校の校歌「友よ」の完成発表会が開催されました。—そして、1年後の平成27年10月9日、統合から半年が経過した白鷹中学校を会場に「白鷹中学校第一回創立記念式典」が開催されました。

—「校歌が生まれた”10月9日“を創立記念日としました。」—



昨年の10月9日に初めて発表された校歌。このときはまだ、生徒たちの声はありませんでした。

式典には校歌を制作いただいた、田勢康弘さん、山崎ハコさん、若草恵さんも出席。小林宏一郎校長は、3名の校歌制作に対する思いを振り返るとともに、生徒たちに対し「校歌を制作していただいた方々の思いに触れ、その思いを大切にしながら、自分たちの校歌に誇りを持って声高らかに歌い続けていくことが、白鷹中学校第一期生の勤めであり、責任です」と話されました。

また、生徒代表のあいさつでは、「記念すべきこの日に在校生として参列できること、また、多くの方に祝福していただけることは大きな喜びであり、誇りです」と生徒会長の金田柊太郎くん。さらに、同生徒会長齋藤遥香さんも、「大きな喜びに満ちた記念式典に参列できることに深く感謝するとともに、地域の皆さんの期待に応えていきたい。白鷹町唯一の中学校として、県下に誇れる白鷹中学校をつくり上げていくことを誓います」と力強くあいさつしました。

そして、校歌斉唱—。
「まず踏み出せ小さな一歩を」「目を世界に心ふるさと」「青春ばんざい白鷹中学校」といったフレーズ—

つひとつに思いを込め、4月9日の開校式から約半年間歌われてきた校歌を、一層声高らかに歌う在校生413名。生徒たちが歌う校歌を、この日初めて聞いた田勢さん、山崎さん、若草さんはそれぞれ、「父、母、先祖の思いを感じながら生徒たちの歌を聞き、あらためて良い歌だと感じた。これからいつになっても、自分の人生の中で中学3年間が大きな転換期だったと思えるように、これからの人生もがんばってほしい」(田勢さん)、「皆さんの歌を聞いて胸が熱くなった。とても素敵だった。これからこの校歌が、皆さんの側でずっと生き続けて行くと思うと本当にうれしい」(山崎さん)、「皆さんが将来この校歌を思い出したときに、勇気をあたえたり、育っていくための力として、少しでも役に立てばうれしい。校歌制作にたずさわれたことを、本当に誇りに思う」(若草さん)と、感想と激励の言葉を述べられました。

今後続いていく白鷹中学校の歴史の中で、変わらずあり続ける校歌と「校歌が生まれた日」。いつまでも変わらぬ青春が「ここ」にあります。

